

# 加西市老人クラブ連合会役員会

日 時： 平成 22 年 3 月 26 日（金） 16：00～17：00  
場 所： 健康福祉会館 ふれあいの間  
参加者数： 5 人

**施設に入居するより、家（住み慣れたところ）から利用できる  
ところを希望する**

**しかし、介護する家族のことを思うと、施設に入ることも  
考えざるを得なくなる**

## 【老人会について】

- ・ 加入年齢は地区によって 60 才、63 才、65 才等と異なるが、一定年齢になるとほぼ老人会に加入となる
- ・ 老人会への加入率は県下では 1 番高い
- ・ 北条地区は他の校区に比べ加入率は低い
- ・ 老人会は地区でも大きな組織になってきている
- ・ 地区の行事のほとんどに老人会が関わっている

## 【高齢者介護施設について】

- ・ 小規模ホームやグループホームは今後増える方向かもしれないが、経営が苦しいのではないか。
- ・ 老人ホーム、特別養護老人ホームなど、ずっと居れるわけではない。その後に利用できる施設はないのか
- ・ 施設に入居するより、家（住み慣れたところ）から利用できることを希望する
- ・ 介護する家族のことを思うと、施設に入ることも考えざるを得なくなる

#### 【移動手段について】

- ・ 催し物のときぐらい、バスを走らせてほしい 行きたくても行けない人が多い
- ・ 催し物が北条中心で、行きたくても行けない
- ・ 友人と乗り合いでどこかに行こうとしても、運転手の家族が車を運転することに反対する（事故発生時の責任問題）

#### 【少子化について】

- ・ 1学年1学級が当たり前になってきている
- ・ 若い人の未婚率が高くなっている
- ・ 未婚の原因のひとつが生活力
- ・ おとなしい男性が多くなったことが未婚の増加につながっている

#### 【福祉活動について】

- ・ いきいき委員会、はつらつ委員会など活動をしている地区では、福祉活動を通してお金の使い道が分かるので、寄付しようという意識も高い。
- ・ 都市化が進んでいるところでは、地域内のつながりも希薄になっているため、福祉活動に対する意識が高まりにくい
- ・ 北条地区の一部ではいきいき委員会、はつらつ委員会が組織されていない
- ・ 小学校区という単位だが、北条地区1つでは大きすぎる（北条と北条東に）分ける方がよい
- ・ 民生委員も町によって活動量、内容に差がある

## 予防が第一で自分の健康を保っていかないといけない という市民の意識は高い

#### 【介護予防、生涯学習、健康づくり活動について】

- ・ 参加者を増やすためには、声かけを繰り返すことが大事
- ・ 加西ロマンの里ウォーキングに参加する高齢者も多い
- ・ 体力的な負担が少ないものが良い
- ・ みんなが参加したくなるような工夫が必要
- ・ 生涯現役でいるためには健康が第一
- ・ グランドゴルフは週2回（10人程度）で地元のグラウンドに集まる  
グラウンドゴルフの後に若い世代と一緒にモーニングを食べに行くのが楽しみ
- ・ 男性の参加を増やすにはツレ（友達）が必要

- ・ 女性はすぐ友達が作れる 友達づくりが得意
- ・ 男性は年をとるにつれて、人付き合いが苦手に
- ・ 高齢者でも女性の方が公民館活動に熱心
- ・ かしの木学園は女性がほとんど 一方、いなみの学園は男性が多い
- ・ 放送大学は最高齢 90 歳以上の方がいる
- ・ グランドゴルフ、ゲートボールには毎日参加している
- ・ うれしの学園は加西からの参加者が多い
- ・ 市が主催する事業は、元気で健康的なもの、マンネリ化しない企画をお願いしたい
- ・ 介護予防教室などの受講者は多い
- ・ 予防が第一で自分の健康を保っていかないといけないという市民の意識は高い

#### 【住宅問題について】

- ・ 新宅で建てる際に滝野で建ててしまう
- ・ 加西は家を建てる規制が厳しい
- ・ ある町では、子どもが就学するまでは市外に住んで、小学校からは町内に入居するように促している
- ・ 税金や公共料金が高いというイメージがあり滝野に住む  
(上下水道の値段に差はあるが、税金は他市に住んでも金額は変わらない 同じ額)

#### 【地域内交流について】

- ・ 老人会の世代と 40 才、50 才の世代との考え方に相違がある (結婚など)
- ・ 自分たちの世代と 40~50 代で考え方が違う (個人中心の考え方の傾向が強い)
- ・ ある町では、三世代交流で、もちつき、クリーンキャンペーンなど全戸が参加している  
町内の若いお嫁さんの世代とも仲良くしている (婦人部)
- ・ 都市部では、土いじりとかすることもなく、お年寄りが家で過ごす時間が長くなったり、引きこもってしまうことが多いのでは
- ・ 田んぼの傍 (はた) で寄り合い、いろんなことを話したりしていたが今はない
- ・ 町内でハイキング、もちつき、とんど等を行っている 継続してできることが大切
- ・ 以前の婦人会組織はないが、婦人部として存続している町もある
- ・ 町内の婦人部では総会や公会堂の掃除なども行っている
- ・ 校区の婦人会 (女性部) の活動が減少、縮小している
- ・ 相互支援が大切なので世代間交流が必要
- ・ 営農組合は男性中心のものとなってしまう、農業における女性の出番がない (反対に人間関係が希薄に...)